

北陸学院大学公開講座

レテック
RiEDeC セミナー
地域教育開発センター

報告書 2016

連続公開講座 ～いのちの重さと輝き～

「ナマの文化がひとをつなぐ！

ハッピーをつくる」

野間成之・紙芝居公演 紙芝居公演を受けて 金森俊朗・講演

2016年6月25日（土）

「野間先生と金森先生の最強のタッグ、とっても良かった。また本日のような講演会を！」 「“宮城”、“京都”、“東京”・・・から来て本当によかった」

「心の底から紙芝居で笑ったのは今日が初めてです」

「『ナマ』、実物の重要性を再確認した」「のまりんの表情やしぐさ、紙のめくり方の抑揚、まるで劇！まるで落語！物語が目の前に浮かんできた。引き込まれました。楽しいの一語に尽きます！」

「金森先生が『教育はアートである』と言われた言葉が印象に残った」

という感動の声が続々。県外からも多数駆けつけ熱くなった会場。二人は生活＝文化が人間を発達させるという「地域に根ざした生活教育」を実践研究する仲間として50年間に共に。情報機器だけに頼らず「ナマ」「実物」「現場」の力の重要性、魅力を訴えた講座でした。



A 幼児期を考える

子どもの学びが見えてくる ～この子たちの幼小接続～

コーディネーター：大井佳子（人間総合学部幼児児童教育学科）

第1回 子どもたちが「自然を遊ぶ」

話題提供：金沢幼稚園の先生たち

2016年5月28日（土）

第2回 就学にあたって小学校に伝えるべきことは何？

話題提供：若あそび場「O」Oのお母さんと卒園幼稚園の先生たち

2016年11月23日（水・祝）

第3回 5歳児の育ちを考える

中止

ビデオ・トークで進めるセミナーも3年目。今年度は、幼児期の遊びの姿が小学校の教科等の学習とどのようにつながるのかという「幼小接続」の問題意識の上に、「何気ない遊びの姿」のビデオ映像を見てグループ討議してきました。参加者は、保育者・保護者・学校の先生・学生・・・と多彩なので、異なる立場の人と語り合えるようグループを編成しています。園内研修等、同じ立場の人だけで話すことが多い中、このセミナーは参加者それぞれが新鮮な視点を得る機会の提供となっているようです。

なお、第3回 1月14日（土）「5歳児の育ちを考える ～もうすぐ卒園～」を準備しておりましたが悪天候により、やむなく中止とさせていただきます。



B 小学校期を考える

第1回 金森俊朗の授業論と模擬授業

2016年6月11日（土）

講師：金森俊朗（人間総合学部幼児児童教育学科）

まとめ：辻直人（人間総合学部幼児児童教育学科）

共催：日本生活教育連盟石川サークル

ラストを飾るのにふさわしい作品は何と新見南吉作「牛をつないだ樁の木」でした。選んだ理由として「人間像がとても重厚に、また一人で井戸を掘った必然性が丁寧に描かれている」からとのこと。「もう一つの理由は後でじーんときて分かるはず」と。「自分たちの周りにも当たり前のように利助や海蔵がいると思います。切なくて泣けました。今、自分が悩んでいることに道が開けたような気がしました」「子どもにとって文学はどういう意味があるか、具体的に紹介してくれた作品を通して自分や人間を見る大切な教育だと実感しました」「涙が出そうになるお話。海蔵さんと母親の人柄と行動・関係性がすごく心に残りました」



第2回 自己肯定感・自尊感情を育む

2016年10月15日（土）

講師：加藤博之（金沢市公立小学校教諭）、松村綾佳（金沢市公立小学校教諭）

まとめ：松村一成（元金沢市公立小学校教諭） 金森俊朗（人間総合学部幼児児童教育学科）

加藤先生は「自分たちのこと分かってよ」と題する支援学級5名の1年間の成長物語を報告。加藤先生に根気強く働きかけられ、成長したRの弁「俺たち障害を持つとる人ってみんなから良いように思われていない。普通の人より勉強遅れているから、しっかりと助けてくれる先生、施設がほしい！」との願いに打たれました。松村先生は「？から討論し互いを認め合う大切さ」と題する算数「平均」の学習を報告。「算数嫌いだー」と言う子を含め13人の気になる子一人ひとりが活躍する、納得する、好きになる算数の授業を創ります。3.4人という人数は存在しない！と主張する子らは納得ゆくまで議論します。子どもの考えをとことん聴く授業に参加者はため息と感動でした。



第3回 子どもが躍動する楽しい学びの創造

2016年10月29日（土）

講師：宮坂洋美（白山市公立小学校教諭）
鹿野真莉子（加賀市公立小学校教諭）
まとめ：金森俊朗（人間総合学部幼児児童教育学科）
金丸洋子（人間総合学部幼児児童教育学科）

「大学時代に期待を膨らませてきた楽しい授業と（学力向上を迫る）現実とのギャップに愕然」とする中で、隙間を縫うように自分なりに行った挑戦を教師2年目の宮坂先生が報告。意味が分かりおもしろさを学ばせながらの漢字習得、算数の授業で楽しくできるようにキャラクターを登場させます。教師4年目の鹿野先生は「言語活動」を取り込んだ国語の苦しかった学校研究の報告。子ども主体を生かすことができない授業に苦闘しながらも、「指導案にほとんど書かれていないその部分こそが子どもたちと国語を楽しむ」ことができ、ようやく喜びを得たと言われほっとします。二人とも本学の出身者です。困難な中でも子どもと共に学びを創ろうと悪戦苦闘。参加者からたくさん学びと応援の声が出ました。



C 社会を再発見しよう

第1回 コミュニケーションのコツを学ぼう

2016年6月11日（土）

講師：松下健（人間総合学部社会学科）

「コミュニケーションのコツを学ぼう」というテーマで講座を実施しました。テーマに合わせてただ講義を聴くだけの座学ではなく、演習形式の講座でした。参加者の方々には講師がグループを指定し、グループごとに課題に取り組みました。グループで取り組む課題は主に3つありました。最初に、簡単に自己紹介をし、お互いのことを理解すること、次に講師から出題されたなぞなぞの答えを検討すること、最後は、講師から具体的な場面設定を提示され、その場面においてどのように断るかをロールプレイ（役割演技）しました。参加者の方々には遊び感覚で他者と関わるコツについて体験していただきました。

第2回 若者が考える金沢の街づくり

2016年6月18日（土）

講師：田引俊和（人間総合学部社会学科）

北陸新幹線開業で金沢の街はにぎわいをみせており、地域住民だけでなく観光客にもやさしい街づくりが期待されています。そんな中、「ユニバーサルツーリズム」をキーワードに誰もが楽しめる金沢観光のあり方を参加者みなさんと共有しました。

具体的には、誰でも一度は聞いたことのある「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」といったことについてあらためて確認するとともに、多様な観光ニーズや観光地ごとの状況・特徴などを考えました。大学の専門ゼミで行なったフィールドワークの結果を参考にしながら、若者の視点で地域社会の特色を捉えた金沢観光を提案する内容でした。

第3回 若者と政治Ⅰ～調査結果からみる若者の政治参加の実態～

2016年8月11日（木・祝）

講師：俵希實（人間総合学部社会学科）

2016年の参院選から選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられ、若年層の有権者が増えました。しかし、若年層全体の投票率は低い水準にとどまっています。

本学の「社会調査実習」で、本学学生の政治参加の実態について調査したところ、次のことが明らかとなりました。①若者が投票に行かないのは、選挙に関心がないことや面倒だと感じているから。②支持政党が特にないにもかかわらず、突然どこかの党に投票する「にわか層」と、家族や知人のすすめで投票する「ひきずられ層」が存在する。③政治に関心のある人、社会貢献活動をする人、情報・知識を得ようとする態度を有する人が投票に行く。

当日はフロアからも発言があり、有意義な時間となりました。

第4回 若者と政治Ⅰ～参議院選挙で18歳は何を感じたのか？～

2016年8月20日（土）

講師：若山将実（人間総合学部社会学科）、西村洋一（人間総合学部社会学科）

「若者の政治離れ」を少しでも解消するために、2016年7月の参議院議員通常選挙から18歳・19歳の10代の若者にも投票権が法改正により認められることとなりました。この講座では、2016年7月参議院議員通常選挙に関する調査を本学学生に対して行い、若者たちは政治や選挙についてどのように理解し、何を考え、そしてどのように行動しているのかを明らかにしました。そのうえで、若者の政治への関心を高めるために政治や選挙について若者に対してどのようにアプローチしていけばよいか、本学の取り組みを紹介しながら参加者と教員間で議論を行いました。

D 英語を体験しよう

コーディネーター：米田佐紀子（人間総合学部社会学科）
講師：クリスタル・ランキート（短期大学部コミュニティ文化学科）

第1回 Happy Easter! ～エッグハンティングでイースターを楽しもう～

2016年4月23日（土）

第2回 Halloween Party ～英語でハロウィンを楽しもう～

2016年10月15日（土）

4月には青空の下、芝生の上でイースターを実施しました。紙芝居や卵飾り、幼児児童教育学科「子ども英語」履修者が嗜好を凝らしたエッグハンティングなど様々な活動に子どもさんたちの歓声が上がりました。10月には毎年恒例のハロウィン。「くじ引きオリエンテーリング」で保護者と一緒に小学校中を歩き回り、trick or treatを楽しみました。参加者からは、「子どもたちが大喜びしていて私も幸せな気持ちになりました。」「息子にととても良くしていただきました。本当に素晴らしいイベントだと思います。」「イースターをすることがなかなかなく、とても楽しかった。これからも参加したいです。」などのご意見をいただきました。ご参加くださった皆さん、笑顔をいただき、ありがとうございました。



F 食と暮らしを考える 作ってみよう、子どもに食べさせたいおやつ

第1回 子どもに食べさせたい簡単おやつ

講師：三田陽子（短期大学部食物栄養学科、俵万里子（短期大学部食物栄養学科）

2016年8月6日（土）

成長期にある子どもにとっての「おやつ」の意義とあり方を講話で学んだ後、旬の野菜や芋などを使った手作りおやつを実習しました。簡単にできるものばかりで、こねる、混ぜるなどの調理作業を楽しんでいるうちに見た目も可愛いおやつが数品出来上がりました。「とても簡単においしくできた」「手作りおやつの参考になった」「子どもに作ってあげたい、一緒に作りたい」などの感想が聞かれ、家庭での実践につながる講座になったと思われます。

第2回 一度は教わりたい、災害時の食事

講師：乙川味巧、塩谷さち子

2016年10月22日（土）

石川県栄養士会から講師を招いて、災害時の食事を講話と実習で学びました。火と鍋と最小限の水があれば、主食・主菜・副菜・デザートまで揃う食事が出来てしまう、その秘密はポリ袋を使った調理にあり！手順も簡単で、小学生のお子さんたちも積極的に作り進めていました。参加者の感想には「驚きの連続でした」「袋ですべての料理が作れるのですごい」「楽しくてためになった」「役に立つ」「子どもにさせたい」などがあり、今後に役立つ有意義な講座となりました。



F 地域から世界を考える

第1回 海外ボランティア活動とは～ミャンマーの孤児院支援15年から～ コーディネーター：天野剛至（短期大学部コミュニティ文化学科） 講師：酒井信也（OM日本事務居総主事）

2016年9月22日（火）

NPO団体OM日本の総主事酒井信也氏を講師にお迎えして、ミャンマーの孤児院支援活動を通じて海外ボランティアについて学ぶ機会をもちました。2015年11月の総選挙の結果、半世紀に及ぶ軍事政権が終わったミャンマー。今後は外国から資本が入り、急速に国内経済が発達していくことが予想される一方、孤児など経済的弱者が取り残されることが懸念されます。講師によると、14年に及ぶボランティア活動の中で体験的に学習したことは、周辺地域へのアプローチの大切さだといいます。仏教国ミャンマーにおいてキリスト教団体の活動は理解を得られにくいのですが、災害時に孤児院の施設を一次避難所として地域住民に開放したことをきっかけに、良好な関係を構築することができるようになりました。傾聴に値する貴重な講義であったが、参加者が一般1名、学生4名と少なく、たいへん残念でした。



第2回 ボランティアの意義～さまざまな活動を通じて～

2016年10月1日（土）

コーディネーター：朝倉秀之（短期大学部コミュニティ文化学科） 講師：松田誠一（富山YMCA総主事）

松田誠一氏は熊本地震（2016年4月14日の夜）の経験を語りました。ボランティア活動とは何か、実際にボランティア活動をするということは難しい問題を抱えています。その行動や言動が本当にその人たちのためになっているのかをいつも問い続けていなければなりません。そのことが大切なポイントなのです。前にボランティアをしたから、と同じようにすればいいのではなく、本当に役に立つとは何かを現地で見て、考え、行動することが大切なのです。今回は避難してきている人たちが一番困っている使用できないトイレの便を取り除き、水を流して、使えるようにすることから始まったといいます。実際に言葉で説明するだけでなく、松田氏はゲームの中でそのことを考えさせる工夫をしていました。とても説得力のあるお話しとなりました。

G 防災・減災

第1回 震災から10年の能登を考えるフィールドワーク

2016年8月4日（木）

講師：田中純一（人間総合学部社会学科）

8月4日の日帰りツアーでは、社会学科田中純一准教授の案内のもと、輪島市社会福祉協議会を訪問し震災当日の様子や災害の教訓について学びました。その後地震でもっとも住宅被害が大きかった門前町諸岡地区を訪れ、住民や元民生委員から当時の避難支援についてお話を伺いました。ツアー最後は、穴水町商店会の復興プロジェクトとして推進する穴水湾でのカヌーを体験、参加者全員が中身の濃い1日を過ごしました。



第2回 イザ！カエルキャラバンin北陸学院

2016年10月1日（土）

講師：金沢エコライフくらぶ、田中純一（人間総合学部社会学科）

実際に人間の重さのあるカエル人形を利用し、被災地で身の回りの物を使って対応したり、触ったことのない器具に触れてみたり、カードゲームを通してトラブルの内容やその時に役立つアイテムを学びました。ゲームに参加するともらえるカエルポイントで、参加者が持ち寄ったおもちゃの交換会に参加できます。リサイクルという面からも学べるイベントでした。本学学生が作成した防災紙芝居も発表することができ、大人も子どもも学生にとっても楽しみながら日常ではなかなかできないことを経験しました。



冬の連続公開講座 ～この地に生きる⑥～

ガラスペンで描く物語とオルガンの調べ コラボでトーク&映像・作品展

2016年11月26日（土）

自分らしく輝く☆表現の原点をふりかえる☆

話し手：細川理衣&黒瀬恵 聞き手：ウッドハムズユウコ

11月26日（土）、クリスマスツリーが飾られた国際交流研修センターフレンドシップホールにおいて、冬の連続公開講座が開催されました。この地に生きる方々をお招きして7回目となる今回は、ガラスペン画家細川理衣さんとオルガン奏者黒瀬恵さんの若いお二人に語っていただきました。聞き手ウッドハムズさんを交えてのトーク前半は、細川理衣さんの聖書を題材にした創作絵本「ひかりひかり」と、黒瀬恵さん作曲のパイプオルガンとのコラボレーションの話題が中心となりました。まず、ガラスペン画とパイプオルガンの魅力や、現在のお二人の活躍の様子が映像を通して紹介されました。そして「ひかりひかり」が発表された金沢教会でのコンサート映像を視聴した後に、絵本とオルガン曲の創作過程のエピソードが語られました。トーク後半は、お二人の幼少期の話から、私たち一人一人にとっての自分らしさと表現についても考えていきました。会場には、絵本「ひかりひかり」の原画と、場面ごとに作曲されたオルガンの楽譜を中心にその他の作品も展示され、参加者は休憩時間にゆったりと鑑賞していました。黒瀬恵さんのピアノ伴奏でクリスマスの賛美歌を歌い、クリスマスを感じて過ごした講座となりました。



REDeCの活動

北陸学院大学スイーツ研究所

スイーツ研究所は、「美味しい」「地産地消」「体にやさしい」をテーマにオリジナルスイーツの商品開発に取り組んでいます。今年は新たに地元洋菓子店の協力を得て、「米粉の焼きドーナツ」を開発。6年連続出展となった「大学は美味しい！！」フェア（於：新宿高島屋）において、好評を得ることができました。バケツ稲の栽培にも挑戦！食材についての理解が深まりました。9月には学生のまち・商品開発大作戦へ参加、10月にはまちなか学生まつりや金時草祭りでの販売も行いました。さらに、よりそいの花プロジェクトと協力し復興スイーツの開発に取り組む等、活動の幅が広がり、他学科、他大学の学生や地域住民との交流を深め、地域活性化にも貢献することができました。



ともいき塾

■よりそいの花プロジェクト

よりそいの花プロジェクトでは今年度3回の災害ボランティア派遣を実施しました。岩手派遣では新たな支援の取組としてスイーツ研究所と連携し「復興スイーツ」を開発、学園祭で販売を行い好評を得ました。県内では金沢市大桑防災拠点広場での防災キャンプ（金沢市危機管理課さんとの連携）、「イザ！カエルキャラバン」、防災紙芝居づくりなど防災教育に力を入れた取組を実践しました。また、熊本地震発生時には支援物資の受付や発送をおこないました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

■金沢市雪かきボランティア協定

十一屋校下町会連合会さんとの間で4年目となる雪かきボランティア協定を締結しました。万が一の雪害に備え地域との連携を図っています。

管理栄養士国家試験対策講座

管理栄養士受験対策講座は、入門編、仕上げ編の2回に分けて開催されました。9月～10月の入門編は昼夜の2部に開講され、夜の部は学外に会場を設けました。今回も、勤務の都合や会場の利便性からか、夜の部に受講者が多かったのですが、昼夜とも受講者は熱心に取り組んでいました。今年で12回目となるこの講座から、多くの合格者が出ており、4大卒資格の管理栄養士として活躍しています。直近の第30回国家試験は例年になく合格率が低かったのですが、北陸3県の2年制養成校出身の合格者の過半数を本学出身者で占めていました。今年も国家試験が近づいているが、受講者の希望が叶えられるよう、健闘を祈っています。

クリエイショングループ

クリエイショングループは、主に子育て支援のイベントなどで、教材の実演や劇、ダンス、歌などのプログラムを提供する活動です。子どもたちも参加でき、楽しいひと時が持てるようなプログラム構成を学生と話し合い、より楽しい企画になるように考え、イベントの舞台に立っています。

2016年度の実施報告としては

- 5月21日 3世代の集い・手つなぎウオーク（石川県ウォーキング協会）
- 6月4日 百万石2dayウオーク（石川県ウォーキング協会）
- 9月4日 福祉の集い2016金沢（金沢市社会福祉協議会）
- 10月10日 はだしの王国（いしかわこどもみらいキャンペーン）
- 10月21日・22日 石川県オレンジリボンキャンペーン（県少子化対策課）
- 10月30日 子育て支援メッセいしかわ2016（子育て支援メッセ実行委員会） 他

また、幼稚園、保育園、施設などのイベントに子どもたちの見守りとして参加することもあります。学生たちはこの活動を通して、大勢の子どもの前に立つということ、適切な言葉のかけかた、またその難しさも勉強します。



金沢市教育プラザ・子育て支援

幼児児童教育学科と食物栄養学科の共同企画「絵本の主人公になってお料理しよう！」を、今年度は8月と2月の2回開催しました。3歳から未就学児の親子が、8月は「ぐりとぐら」のカステラ、2月は「3匹のくま」のスープを親子でつくり、絵本の世界の中でおいしく食べました。毎回大好評で、次年度も、長い歴史の中で培ってきた本学の学問分野に関する研究とその成果を地域に向けて発信していきたいと考えています。

●ぐりとぐら

茶色のフェルトのお耳を付けた赤と青の三角巾はぐりとぐらそっくり。出来上がりを待つ間に流れてくる甘い香りニ子どもたちはワクワク。美味しいカステラが出来上がりました。



●さんびきのくまのスープ

食物栄養科の独自のレシピをもとに作ったかぼちゃのスープはとても甘くておいしく、クマの形を型押ししたパンなど子どもたちがすすんで参加できる調理は大好評。会食の後は幼児児童教育学科の学生による『さんびきのくま』の劇もあり、子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごすことが出来ました。



あそび場J O J O

大学のラウンジに設定された遊びを中心にしつつ、子どもたちはラウンジの窓から見渡してキャンパスの丘や林へ出かけて自然環境をも上手に活用。月1回、たっぷり3時間を20人くらいの子どもたちが遊びをつくり出して過ごします。その間、親御さんたちは別室で、他所では語りにくい発達障害にかかわるあれこれを話題に語り合い笑い合います。夏と冬に1回ずつは第一幼稚園が主会場で、水遊び・雪遊びを満喫。この日は親御さんたちも遊びに入り、いろいろな子どもの姿に触れる機会となります。参加者は、親子もボランティアスタッフも毎回同じではなく、毎回参加の人もいれば時々の参加の人、たまに参加の人、そして初参加の人もいて、子どもたちはそんな状況を活かして、遊びを通じていろいろな人を試し、遊びを通じていろいろな人を理解していている様子が覗えます。本学学生だけでなく他大学からの参加も、現場からの参加もあるボランティアスタッフは、子どもたち一人一人の「学ぶ力」を体感する場となっています。

幼児の音楽グループ

幼児の音楽グループは、北陸学院扇が丘幼稚園で週1回1時間半の課外活動として実施し、今年度は、子どもも教師も双方の自分らしさを大切に活動を目指しました。毎回教師の演奏を聴く鑑賞タイムを設け、クラシック曲やジャズピアノ、ギターの音色やパーカッションのリズム演奏を楽しみました。そして聴いている時の子どもたちの反応から、様々な表現が工夫され活動が展開していきました。子どもの動きが最もダイナミックになるのは、音楽に合わせて自由に表現する時です。ボールやフープを使ったり、縄やトランポリンを飛んだり、音楽に乗って身体が弾み、歌を口ずさんで笑顔が輝いていました。



MAGONOTE塾

不定期開催のMAGONOTE塾ですが、今年度はお休みとなりました。

その他の地域貢献活動

平成28年度高齢消費者被害防止寸劇出前講座事業(石川県)

人間総合学部社会学科 真砂ゼミ、松下ゼミ

石川県の「平成28年度高齢消費者被害防止寸劇出前講座事業」に本学社会学科の真砂ゼミ、松下ゼミが採択されました。

臨床心理学を専門としている学生たちが、これまでに行った高齢者の心理検査経験を活かし、高齢者の心理特性に合わせた寸劇を制作しました。高齢者を消費者被害から守るためには、高齢者のみならずその家族等への働きかけも必要であると考え、家族等に寸劇を通じて消費者被害に理解を深めてもらうことで被害を予防することを考えました。

オレオレ詐欺の被害事例を寸劇で披露するだけにとどまらず、劇を振り返り、だまされないために注意してもらいたい点についてフィリップで分かりやすく紹介することで、高齢者も再確認しやすい内容となっていました。

実際の講演は津幡町立萩野台小学校、山城地区会館をはじめ、複数の施設で実施され、敬老会や各地区の高齢者の方々が参加されました。

学生からは、「寸劇を通してどのような形で行えば、詐欺の恐ろしさが上手く伝わるのかを一番に考えた。これを機に、高齢消費者被害にあわないよう、今後の対策に役立てていただきたいと思う。」などの感想がありました。



REDeC 講座	一般向け	19講座		参加者人数	727名
出張講座	一般向け	28会場	30回	参加者人数	1013名
	高校生向け	5会場	16回	参加者人数	658名

2016年度北陸学院大学公開講座およびREDeCセミナーへ、多くのご参加をいただき誠にありがとうございました。2017年度も皆様に喜んでいただける講座を多数ご用意してお待ちしております。



地域教育開発センター

(Regional Education Development Center: REDeC) とは、

北陸学院大学が行っている学問分野(幼児児童教育、英語及び英語教育、心理学、社会学、食生活その他の学問分野)に関する研究の成果をもって地域社会に貢献することを目的とする組織です。

北陸学院大学 人間総合学部

幼児児童教育学科 (子ども教育学科)

社会学科

北陸学院大学短期大学部

食物栄養学科

コミュニティ文化学科

※全学科男女共学



北陸学院大学 地域教育開発センター

〒920-1396 石川県金沢市三小牛町イ11番地
TEL : 076-280-3850 FAX : 076-280-3851
Mail : redec@hokurikugakuin.ac.jp